



ウィーン旅行記

海外演奏旅

2009.1.4~1.11

ウィーン



成田 → ウィーン・WIEN

初めての海外遠征は小学6年生からOBまでが参加し、音楽の都・ウィーンへ。音楽の殿堂ともいわれる楽友協会での公演が、今回の一番の目的でした。

到着の翌日は、まずホールでのリハーサル。天井に描かれた芸術の女神ミューズが見守る中で、動きや響きを確認しました。

その後、お楽しみの市内観光へ。舞踏会も開かれるという市庁舎の地下にあるレストランで昼食。日本人向けに半分の大きさという「ヴィーナーシュニッツェル」はそれでもびっくりするほどの大きさ。お腹をいっぱいにして、「シェーンブルン宮殿」や「ヨハンシュトラウスの金の像」、「国立オペラ座」などきらびやかなウィーンを楽しみました。

そして公演当日。午前中はウィーン郊外のヤマハホールで練習を。日本からの移動の疲れや本番を前にした緊張をやわらげてくれたのは、なぜか懐かしい昼食のハンバーガー。見たこともないくらい大きいXXLサイズのハンバーガーに、ちょっとホッとした団員たちでした。

午後はホテルのミーティングルームを使って最後の練習。衣装をつけ、メイクをして…、次第に本番モードに入り、顔付きもきりっとしました。

公演では「沖縄のスケッチ」（曲：寺嶋陸也 詞：沖縄民謡 谷川俊太郎）から「久高」・「あかなー」・「唐船どーい」を演奏しました。ウィーンの観客でいっぱいになったホールに、息のあった踊りと歌声が響きました。ブラボーの声も掛かり、公演は大成功でした。

楽友協会で歌うという願ってもない機会を得て、そこにむけて積んだ練習。当日の拍手。この公演がもたらしてくれた経験は、これからの大切な糧になると思います。こうした機会を応援して下さった方々に心からお礼を申し上げたいと思うとともに、これからもSK松本ジュニア合唱団がこの歌声を絶やすことなく活動を続けることが一番の恩返しだと思いました。